

一般会算 30億円の大台を突破



無秩序なスプロール化を規制

道路・環境整備に重点

ことしの市行政のあり方を決める三月定例市議会は、三月十二日から二十三日までの十二日間（本会議五日、委員会三日、休会四日）の会期で開かれ、一般会算予算三十六億二千二百二十万円の議案三十二件、報告二件、議員発議五件をそれぞれ承認、陳情九件、請願十一件が審議され、採択五件、不採択一件、継続審議十四件とされました。また、金堂市長が次期市長選への再出馬を表明、市政方針演説がありました。

金堂三選出馬を表明

新装なった市議会議場で、はじめての議会とあって議員、執行部も緊張した面持ち。四十六人収容できる傍聴席も設けられ、初日の市長の施政方針演説には、野村信義さん（里改田）が一番乗り。二日間の休会のあと十五、六日の一般質問には、いつも二十人ぐらいの市民が詰めかけるといふ盛況ぶり。議員さんもついハッスルして熱弁を大いに発揮していました。また、市長の答弁に傍聴席から拍手がなるなど、緊張したなかにもなごやかな場面もありました。一般質問の皮切りは「市長の政治姿勢について」この十二月末で

任期切れになるので、三期目もやりますか。というわけ。

答弁に立った金堂市長は「やりかけの仕事も多く、幸に身体も健康だし、意欲も十分あるので、引き続きついで市政を担当したい。よろしく」と、年末の市長選挙に再出馬することを表明。三期目の市政に意欲のほどをみせました。

一般質問に先立ち、市長の施政方針演説では「市が発足してから十四年。苦しい財政をのりこえ、懸案の庁舎も完成。心を新たに十五年度の市政に取り組む。市は県都、高知市の影響がはげしく大津、介良の合併で、直接高知市と境を接することになり、交通面でも空港、縦貫高速道路、高知東道路（32号線東バイパス）など、また、十市のパークタウン、岡豊の住宅団地、刑務所など、高知市の副都市としての役割りと住宅用地、工業用地などの需要が増大している。このような情勢のなかで無秩序なスプロール化（虫くいの状態）をゆるすことなく、都市と農業振興を二本の柱に、調和のとれた商工業の発展を進めていきたい。そのため、さらに道路、上下水道、自然保護と環境整備、区画整理事業などによる都市基盤の整備と農協との積極的なタイアップで、農業基盤の整備をはかることを目標に、総合的な土地利用計画

をたてたい。そこでことしは災害復旧と防災、道路の整備、教育施設、環境の整備を柱として積極的にとりくむ」と述べました。

一般会算 34億円の伸び

一般会算は、三十六億二千二百二十万円で、三十億円の大台を大幅に突破。昨年比べて三四、二七割の伸び率となりました。

これは、9・15集中豪雨による災害復旧、建設費の増高、人件費のアップ、老人・ゼロ歳児の医療無料化、その他の福祉対策費などの伸びがいちじるしかったためでなかでも扶助費は四九、二割と大幅な伸びをみしました。

水道会計は、企業会計の二年目大篠、岡豊、南部海岸地帯、長岡野中、前浜、久礼田の新設、改良工事費一億九千二百八万四千二百五十千九十八万円で給水戸数四千五百戸、市全体の三九割にまで普及します。

国保会計（事業勘定）五億六千二百一十萬円（直診勘定）百一萬円昨年より二〇割の伸びで、老人、ゼロ歳児二千八百八十八人の医療費も見込まれています。

特殊道路等整備事業会計は、三千三百九萬円。高知刑務所の移転関連工事として市道八幡和田線の改良が行なわれます。